

# 前橋市社会福祉審議会 第4回高齢者福祉専門分科会 議事録

- ◆ 日時 令和8年3月24日(金) 午後1時30分～午後2時47分
- ◆ 場所 前橋市役所 11階 北会議室

- ◆ <出席者> 12人(敬称略) ◎=分科会長 ※職務代理  
委員： 柳澤 和良 (群馬弁護士会)  
五十嵐 洋 (群馬司法書士会)  
結城 啓之 (前橋市歯科医師会)  
岩井 丈幸 (前橋市医師会)  
◎後閑 千代壽 (前橋市老人クラブ連合会)  
高橋 慶次 (群馬県在宅福祉サービス事業者協会)  
三俣 和哉 (群馬県地域密着型サービス連絡協議会)  
柳川 右千夫 (群馬県老人保健施設協会)  
高橋 豊 (群馬県介護支援専門員協会 前橋支部)  
臨時委員： 土屋 昭雄 (群馬医療福祉大学短期大学部)  
山口 怜生 (認知症の人と家族の会 群馬県支部)  
高坂 秀晴 (市民公募)

- <欠席者> 5人  
町田 敬子 (群馬県看護協会)  
北川 公啓 (前橋市社会福祉協議会)  
久保田 光明 (前橋市民生委員・児童委員連絡協議会)  
小林 明 (群馬県老人福祉施設協議会 中毛ブロック)  
※石川 麻衣 (群馬大学大学院)

<傍聴者> なし

## ◆ 議事内容

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事

- (1) 社会保障審議会介護保険部会資料について【追加1】
- (2) 介護保険事業について
  - ・2040年の状況【資料1】
- (3) 各種調査の実施結果(概要)について
  - ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査【資料2】【参考1】
- (4) 各事業の状況について
  - ・基盤整備の状況【資料3】
  - ・介護予防・日常生活支援総合事業【資料4】
  - ・認知症施策推進計画【資料5】

- ・スマイルプランの基本理念【資料6】

(5) 今後の分科会の開催予定について【追加2】

4 その他・質疑応答

5 閉 会

◆ 配付資料

上記、当日配布資料として、【追加1】、【追加2】を配布。

## 1 開 会

進行：長寿包括ケア課 大嶋課長

- ・臨時委員3名の紹介

## 2 あいさつ

- ・後閑分科会長より

## 3 議 事

※議事開始前

- ・傍聴者がいないことの報告

議題（1）社会保障審議会介護保険部会資料【追加1】について

→特になし

---

議題（2）介護保険事業について（2040年の状況）【資料1】

【柳川委員】

介護保険料が令和6年と比較して令和21年には約30%増となっている。物価高を踏まえたシミュレーションを行うと上限・下限が算出されるが、その点はいかがか。

【事務局】

現在の計画の中では、介護保険料の推計に物価高の影響は反映していない。

【柳川委員】

可能であれば、物価高を考慮したシミュレーションも検討していただきたい。

---

議題（3）各種調査の実施結果（概要）について

- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査【資料2】

→特になし

---

議題（4）各事業の状況について ●基盤整備の状況【資料3】

【柳澤委員】

他市町村からの入所者が多いということは、前橋市内の入所希望者が入所できないということになるのか。

【事務局】

全体としては空きもあり、入所しにくくなっている状況ではない。前橋市内の基盤を市外の方も利

用している現状を示したものを。

**【柳澤委員】**

都市部から前橋に入所することによる弊害やメリットはあるのか。

**【事務局】**

特養・老健・介護医療院は整備に公費補助があるが、サ高住・有料老人ホームには公費補助がない。前橋市としては、市外の方が前橋市の補助金で整備した施設を利用するという課題意識がある一方で、人材確保の困難性はあるものの、地域経済（働く・消費する・食材購入など）に貢献しておりメリットがあるという考え方もある。

施設運営を行う三俣委員の意見を伺いたい。

**【三俣委員】**

基盤整備は適正に公費が投入され整備されていると感じる。

市内施設の利用状況を見ると、特養や特定施設で定員に対して利用が少ないところがあるが、地域性なのか、実際に利用者がいないのか、飽和なのか伺いたい。

**【事務局】**

特養については毎年待機者調査を実施しており、一定数の待機者はいる。

ただし空床が出る理由は様々で、待機者と施設のニーズが合っていないことや圏域の問題もある。

今後施設の意見も伺いながら分析したい。

**【後閑会長】**

特養でケアマネが一人欠けると審査に時間がかかる。

ケアマネ資格の要件が緩和されれば、施設利用もしやすくなるのではないかと。

**【事務局】**

ケアマネの問題は全国的な課題。

**【高橋（慶）委員】**

資格は国の制度の問題だが、現場では事務量が減った感覚はない。

給与も以前ほど介護福祉士との差がなくなっており、人材確保が課題。

**【事務局】**

処遇改善はケアマネも対象になっており、国も対応を進めている。

---

**●介護予防・日常生活支援総合事業【資料4】**

**【高橋（豊）委員】**

総合事業を利用すると福祉用具が使えないなど、需要と供給のミスマッチがある。

**【高橋（慶）委員】**

居宅介護支援事業所としては訪問A事業がサービスとしてつながらない印象がある。

多くの時間をヘルパーに依頼したいというニーズも時々ある。

---

**●認知症施策推進計画【資料5】**

→特になし

---

**●スマイルプランの基本理念【資料6】**

→特になし

---

## **議題 (5) 今後の分科会の開催予定について【追加2】**

→特になし

---

### **【各委員からの総括的なご意見】**

#### **【山口委員】**

認知症施策における多様な主体の連携強化について、窓口が増える中で、つながりがより強化されることを望む。認知症家族の会の認知度が低く、内容も知られていない部分が多い。連携を図っていききたい。

#### **【土屋委員】**

特養整備、人材確保が課題との話があったが、大学でも学生募集に苦戦している。入学予定者の半分以上が留学生であり、今後外国人材の活用が重要と感じる。

#### **【岩井委員】**

ニーズ調査を見ると高齢者が増えているにもかかわらず、健康度・幸福度が向上しており良い傾向。認知症施策も進んでいると感じる。

#### **【高坂委員】**

誤嚥性肺炎で入院した方が、医師からレビー小体型認知症と診断された。入院前から幻視があったことは知っていたが、認知症とは想定していなかった。在宅時から気づける仕組みがあれば、もっと早い対応ができたのではないかと感じる。医療教育はあるが、福祉教育をもっと充実して良いと感じる。

#### **【五十嵐委員】**

基本理念から「家庭」を削除するのは国の方針に沿っているのか。家庭を重視しないということか。

#### **【事務局】**

家庭を軽視しているわけではなく、「地域」という概念の中に「家庭」も含まれる。高齢者の住まいが多様化しており、国は「住み慣れた地域で」という表現を使用している。家庭介護への支援は当然必要であり、今後も継続していく。

#### **【後閑会長】**

外国人と共生していくことが重要と感じる。

#### **【事務局】**

来年度は計画策定年となるため、より一層の協力をお願いしたい。介護関係者や学識経験者に個別で意見を伺うこともあるかもしれない。皆様とともに考え進めていきたい。

---

## **4 その他**

(事務局)

次回6月の開催予定。来年度は4回開催予定。

## **5 閉会**

(吉野福祉部長)

来年度の第10期プラン策定に向け、分科会を4回開催予定である。

住み慣れた地域で生き生きと暮らせる社会の実現を目指し、皆様とともに取り組んでいきたい。今

後とも協力をお願いしたい。

以上